


平成27年12月17日



ITP(ガンマグロブリン大量療法)で入院される(

)さま

主治医は、_____です
 病棟師長は、_____です
 担当看護師は、_____です

	入院当日	入院2日目以降	退院日
月・日・曜日	/ ()	/ () ~	/ ()
食事・栄養	特に制限はありません。 		
安静度	症状によって制限があります。出血傾向の強い時には安静にしておいて下さい。 治療により出血傾向が落ち着いたら、制限は解除します。		
清潔	出血傾向の強い時には、入浴はできません。 血小板数が安定し、持続点滴がはずれるまでは、蒸しタオルでからだを拭いて下さい。 		退院後は入浴できます。 
検温	基本的に、1日4回します。 体調が思わしくない場合は、お知らせ下さい。 	起床時、毎食後に体温を測って検温表に記入して下さい。	
点滴・服薬	治療のため、点滴・内服を行います。 ガンマグロブリンの点滴によるショック・頭痛・発熱・悪寒戦慄・発疹・嘔気・嘔吐などの副作用が出現する可能性があります。 出現時には、医師の指示の元に、適切な処置を行います。		症状が安定したら、点滴の針を抜きます。 
検査	血液・尿・便検査などを行います。以後、状態に応じて検査は追加します。 		
説明・指導	看護師による説明  入院までの経過・病状などをお伺いします。 本日の予定・入院中の日課・病棟案内 	具体的な検査・治療内容については、 入院診療計画書及び医師による説明を参考にして下さい。	医師による説明  検査結果により、退院についての説明があります。 ・他院及び、他科受診をする際には、ITPであることを担当医師へ告げて下さい。(特に抜歯など、観血的処置を行う場合) また、血小板機能抑制作用のある薬剤(鎮痛解熱薬、消炎薬など)の服用についても担当医師に相談して下さい。 ・服薬は用法用量を守り、むやみな服薬変更や中断をしないで下さい。 ・薬による副作用や出血症状があれば、ただちに受診して下さい。

* 症状に応じて、予定は変更になる場合があります。ご不明な点がございましたら、担当看護師におたずね下さい。



2011年8月作成 広島赤十字・原爆病院 小児科